みすず書房75周年フェア

～みすず書房の本 宝探し～

by まちの本棚スタッフ

みすず書房という出版社をご存知でしょうか。
まちの本棚では、ご縁があり、一昨年よりお取り扱いをしています。

今年は創立75周年。戦後間もなくの頃、戦争から復員し、
出版で新しい人生を切り開こうと考えた小尾俊人(おび・としと)を中心に、
美篶(みすず)書房はスタートしました。

人文科学に強い出版社として「難しい」というイメージがあるかもしれません。
しかし今回は、本棚に来てくださるお客様にむけて、
スタッフがおすすめしたい本を中心に選びました。
この機会に、みすずの本で書物への愛情をぜひあじわってください。

夜と霧　ドイツ強制収容所の体験記録

V・E・フランクル著・霜山徳爾　訳／税込 1,980 円

夜と霧【新版】

V・E・フランクル　著・池田香代子　訳／税込 1,650 円

みすず書房といえば「夜と霧」。毎月 1,000 冊以上売れているのだそうです。アウシュヴィッツの強制収容所に収容され、奇跡的に生還した著者。極限の状態で人間の精神はどうなっていくのか、心理学者としてその体験を冷静に分析します。人間とは何か、生きる意味とは何かを考えさせられます。

新版は、旧版にあった記録写真を省き、フランクル自身による内容改訂に合わせて新しく翻訳されたものです。

生きがいについて

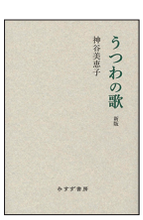
神谷美恵子　著／税込 1,760 円

「いったい私たちの毎日の生活を生きるかいあるように感じさせているものは何であろうか。ひとたび生きがいをうしなったら、どんなふうにしてまた新しい生きがいを見いだすのだろうか。」ひとが生きていくことへの深いいとおしみとたゆみない思索で、現代の私達をも支え、力づけてくれる「人生の書」。

本、そして人

神谷美恵子　著／税込 2,420 円

結核療養期を支えてくれた「恩人」マルクス・アウレリウス、一生を決めるほどの「電撃」をうけたプラトンをはじめ、人生の折々に著者を助け、つくりあげた本、そして人について綴った文章や本格的な書評、読書メモ、親しい人への手紙などがまとめられています。中井久夫解説。



うつわの歌

神谷美恵子　著／税込 1,760 円

余命少なきことを感じながら、病床で綴られたノートや原稿用紙には、身近な人々、そして人間の存在をこえた大いなるものへの感謝と祈りに満ちた詩が残されます。あわせて「うつわの歌」「癩者に」など戦前に発表された詩篇及び訳詩も。

若き日の日記【新装版】

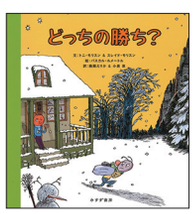
神谷美恵子　著／税込 3,20 円

精神科の医師であり、みすず書房での著作も数多い神谷美恵子さん。医学修業時代から医局へ入った頃の若き日の日記。戦時下から終戦後の時代の、ささやかに文化を楽しみつつ、文学創作への想いと医学への志についての模索が書き留められています。

Haruki Murakami を読んでいるときに我々が読んでいる者たち

辛島デイヴィッド　著／税込 3,520 円

村上春樹の作品は、世界中、特に英語圏でよく読まれています。その背景には、本にまつわる人たち(翻訳家、編集者、書評家、書店員…) の活躍がありました。作家自身へのインタビューも含め、Haruki Murakami が愛される理由を探ります。



どっちの勝ち？

トニ・モリスン　著／税込 3,300 円

みすずらしからぬ本にみえますが、アフリカ系アメリカ人で初めてノーベル文学賞を受賞したトニ・モリスンによる、矛盾だらけの世界で生きぬくための、現代社会の「イソップ物語」絵本。子どもも大人もどうぞ。

ある作家の日記【新装版】

ヴァージニア・ウルフ　著／税込 4,840 円

ウルフの 36 歳から亡くなる直前の 59 歳までの日記です。物語が出来上がるまでの創作過程での試行錯誤や心情のありさま、当時他に何を読んでいたかまで記されています。ウルフの死後、夫・レナードにより編纂された本書は、創作の喜びと楽しみを生き生きと伝えます。

女性にとっての職業

ヴァージニア・ウルフ　著／税込 3,520 円

女性が作家になるには、年収 500 ポンドと自分だけの部屋が必要とヴァージニア・ウルフは言い、また、真の作家であるためにさまざまな規範の押し付けに抗わなければならないとも語りました。今なお読み継がれるフェミニズムの名著、ぜひ一度手にとってみてください。

病むことについて【新装版】

ヴァージニア・ウルフ　著／税込 3,300 円

ウルフがインフルエンザにかかった時の心象を描いた表題作のエッセイの他に、源氏物語の書評を含めた評論など全 16 篇です。皮肉とユーモアで満ちたウルフらしさあふれる一冊です。表題作に関していえば、今なお病渦を生きる私たちにも共感できる点があるのではないでしょうか。

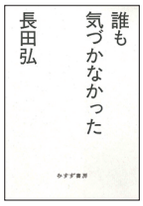
サードプレイス
コミュニティの核になる「とびきり居心地よい場所」

レイ・オルデンバーグ　著／税込 3,960 円

1）家、2）職場、そして個人の生活を支える場所として都市社会学が着目する〈サードプレイス〉。様々な事例が紹介され、マーケティングや地域社会づくりの分野に刺激を与えつづけてきた一冊です。

石巻まちの本棚

裏面へ続く→



誰も気づかなかった

長田弘　著／税込 1,980 円

「本があった。しかしそれが本だと、ここにいる誰も、気づかなかった。本は読まれなかったからである。」没後 5 年、詩人がそっと遺してくれた断章をまとめた小さな本。これからどう生きればよいのか、新しい視点を与えてくれます。

詩の樹の下で

長田弘　著／税込 2,420 円

「樹や林、森や山のかさなる風景に囲まれて育った幼少期の記憶だ。」福島に育った詩人にとって幸福の再確認の書となるべきものでしたが、後半には行方不明の人たちを思う作品が。震災後 10 年の時を経てふたつの記憶がひとつにつながり、作者が伝えようとしたことに再び向き合うことに…。

文学は実学である

荒川洋治　著／税込 3,960 円

高橋源一郎氏をして「本について書く日本語の使い手の中で、間違いなく最高のひとり」と言わせる著者。1992 年から 2020 年までに書かれた古今東西の文学をめぐるエッセイの中から 86 編を精選。思わず紹介された本を読みたくなる面白さ！

霧中の読書

荒川洋治　著／税込 2,970 円

現代詩作家である荒川さんが、内外のたくさんの文学や文学者を取りあげた文芸エッセイの最新作。保坂正康さんによると、模範的な短文で説く読書家の人生訓だそうです。この夏は読書で新たな発見を！

アラン島　新装版

ジョン・M・シング　著／税込 3,520 円

アイルランドにあるアラン島。苛酷な自然の中で独自の文化を育み、たくましく生きる島人たち。その暮らしぶりを誠実に記録した 19 世紀末の紀行文学の傑作。

ランスへの帰郷

ディディエ・エリボン　著／税込 4,180 円

作家であり、哲学者である作家の自伝でありながら、社会への鋭い考察となっている一冊です。貧困家庭に生まれた自らの出自を辿りながら、階級社会や執拗な性規範の押し付けという支配と服従のメカニズムが働く社会の異様さと、それがもたらす苦しみが書かれています。

短編で読むシチリア（大人の本棚）

編訳　武谷なおみ／税込 3,080 円

シチリア文学を愛する編者による、地元ゆかりの作家の初訳作品を多数収録。本文には詳細な注により、シチリア文学を読むうえで知っておきたい基礎知識も得ることができます。本書を通して近代シチリア史に触れてみては。

庭とエスキース

奥山淳志　著／税込 3,520 円

写真家の奥山さんは、北海道の丸太小屋で自給自足の生活を営み、庭とともに暮らす弁造さんの姿を 14 年にわたって撮影します。奥山さんと弁造さん。人が人と出会ったことの豊かさを伝える心揺さぶる写文集です。

怪物君

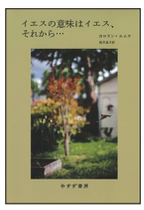
吉増剛造　著／税込 4,620 円

前回のリボーンアートフェスティバル後も鮎川や石巻を訪問し、詩作を続ける現代詩人吉増さん。本にするのは不可能といわれていた、震災後に書き続けられた詩の群れが、ついに詩集に。驚きの本をぜひ手に取り、そして吉増さんのように声を出して読んでみて下さい。

ランスへの帰郷

ディディエ・エリボン　著／税込 4,180 円

作家であり、哲学者である作家の自伝でありながら、社会への鋭い考察となっている一冊です。貧困家庭に生まれた自らの出自を辿りながら、階級社会や執拗な性規範の押し付けという支配と服従のメカニズムが働く社会の異様さと、それがもたらす苦しみが書かれています。



イエスの意味はイエス、それから ...

カロリン・エムケ　著／税込 3,080 円

エムケはドイツ在住の女性ジャーナリスト。性暴力を告発する #MeToo 運動をきっかけに、暴力とそれが見過ごされるメカニズムを掘り下げていきます。つぶやくように、ものの見方、言葉、イメージ、その共有のしかたをひとつひとつ考え、小さな声で世界を変えようという試み。

独り居の日記【新装版】

メイ・サートン　著／税込 4,180 円

失意の底にあった詩人の目は内面へ深く注がれ「孤独」が光を放つ。部屋に飾られた花たち、大切な友人、詩作、読書、生と死、社会問題…日記に綴られた日々のできごとは、私達の生活と重なります。孤独に向き合う勇気を与えてくれるサートンの代表作。

回復まで【新装版】

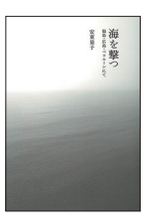
メイ・サートン　著／税込 3,850 円

パートナーとの別居、新聞の酷評、病気など…彼女に次々と襲いかかる苦痛を、「じっくり経験すること」で抜け出していきます。「自らを回復させられるかどうか、やってみるために」と冒頭で決意し、再開した日記です。

74 歳の日記

メイ・サートン　著／税込 3,520 円

軽い脳梗塞、体調不良というどん底の状態からスタートする日記。そして自らの老いを受け入れつつ、サートンの「独り居」は豊かさと生気をとり戻していきます。コロナ禍での生き方へのヒントにも。



海を撃つ　福島・広島・ベラルーシにて

安東量子　著／税込 2,970 円

震災前に移住したいわき市の山間に暮らす著者。放射線について学び、勉強会を開き、地域住民や作物の線量の測定を始めます。地域と放射能に向き合う安東さんの冷静な文が印象に残ります。そしてこれは今後もまだ続く現在進行形のできごとなのです。

ナガサキ

スーザン・サザード　著／税込 4,180 円

長崎で語り部を続けてきた被爆者の原爆投下前から現在までを追った多くの資料と調査に基づくノンフィクション。被爆者の側に寄り添った文章は、これが日本人によって書かれるべきではなかったのかと考えさせられるほど。

もう一つの衣服、ホームウエア 家で着るアパレル史

武田尚子　著／税込 2,970 円

寝ている時間含め、人生の半分以上は「ホームウェア」で過ごしているのに、軽く扱われがちですが本当にそうなのか？日本のアパレルにおけるその発展を、服飾史・文化史の視点のもとにひもとく、初めての小史。

アーカイブの思想　言葉を知に変える仕組み

根本彰　著／税込 3,960 円

個人を助け、社会を支える基盤としてのアーカイブ文化論。言葉を記録することにどのような意義や効果があるのか。これまでのアーカイブの歴史と役割から考えます。